

令和7年度 定期作況報告

〈令和7年5月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

根雪始は平年に比べ3日早く、根雪終は6日早く、積雪期間は平年より3日短かった(表1)。

4月下旬: 平年と比較して、平均気温は1.0°C低く、最高気温は3.0°C低く、最低気温は1.4°C高かった。

降水量は36.5mmで平年の203%、日照時間は37.2時間で同54%だった。

5月上旬: 平年と比較して、平均気温は平年並、最高気温は0.7°C低く、最低気温は0.8°C高かった。降水量は36.0mmで平年の173%、日照時間は63.1時間で同93%だった。

5月中旬: 平年と比較して、平均気温は0.8°C高く、最高気温は1.1°C高く、最低気温は平年並であった。

降水量は10.0mmで平年の39%、日照時間は54.5時間で同81%だった。

以上、平年に比べ平均気温は平年並で、最高気温は0.8°C低く、最低気温は0.8°C高かった。降水量は82.5mmで平年の128%、日照時間は154.8時間で同76%だった(表2)。

表1 季節調査

項目 年次	前年		本年							
	初霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩霜 (年月日)	初霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R6.10.21 10.23	R6.12.11 12.14	R7.3.1 3.7	81 84	R7.3.31 4.16	R7.4.09 4.08	R7.4.06 4.26			
平年								10.23	179	11.11
比較	▲2	▲3	▲6	▲3	▲16	1	▲20			

注1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方気象台(函館市美原)の観測値を使用した。

ただし、晩霜は函館地方気象台の観測値に基づく推定値(最低気温が1.3°C以下)とする。

注2) 平年値はてん蔵(前10か年)による。

注3) 比較の▲は「早」を示す。

注4) 降雪終および晩霜の本年値は、5月20日現在においては未確定である。

表2 気象表

調査項目	4月下旬			5月上旬			5月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(°C)	8.7	9.7	▲1.0	11.5	11.5	0.0	13.8	13.0	0.8	11.3	11.4	▲0.1
最高気温(°C)	12.4	15.4	▲3.0	16.4	17.1	▲0.7	19.8	18.4	1.1	16.2	17.0	▲0.8
最低気温(°C)	5.2	3.8	1.4	6.6	5.8	0.8	8.0	7.8	0.2	6.6	5.8	0.8
降水量(mm)	36.5	18.0	18.5	36.0	20.8	15.2	10.0	25.7	▲15.7	82.5	64.5	18.0
日照時間(hr)	37.2	68.6	▲31.4	63.1	67.9	▲4.8	54.5	67.3	▲12.8	154.8	203.8	▲49.0

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

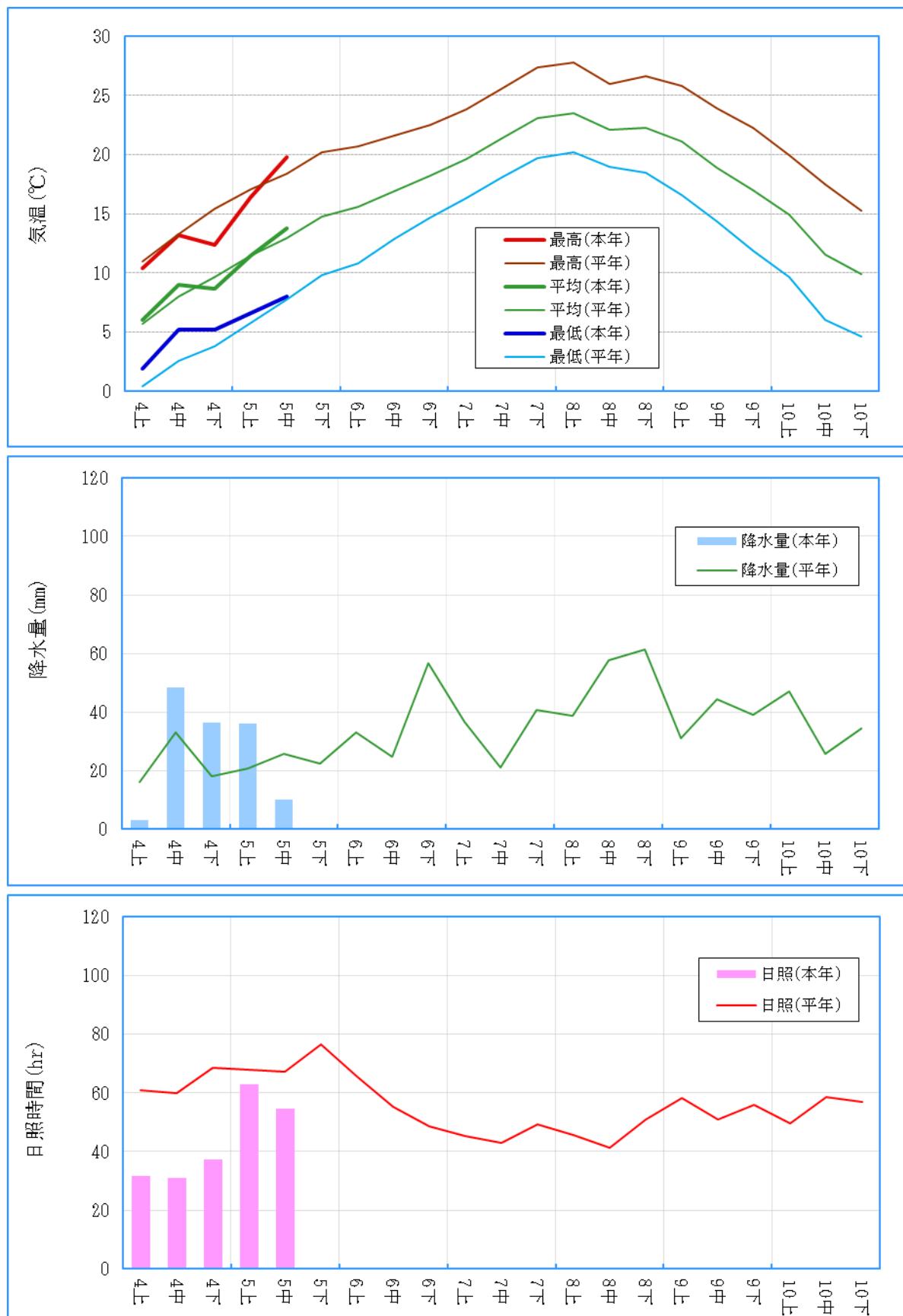


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和7年、北斗市)

2. 作況（水稻）

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬はやや低温で寡照、5月上旬は平年並の気温で寡照、5月中旬はやや高温で寡照であり、全体として平年並の気温で寡照であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は「ふっくりんこ」は平年より短く、「ななつぼし」は長かった。葉数は2品種ともに平年より多く、茎数は「ふっくりんこ」は多く、「ななつぼし」は少なかった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた（表3）。以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表3 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)		6.30			6.26	
	止葉期 (月日)		7.16			7.14	
	出穂期 (月日)		7.25			7.23	
	成熟期 (月日)		9.13			9.06	
	穂揃日数 (日)		6			6	
	登熟日数 (日)		50			46	
	生育日数 (日)		144			137	
移植時	草丈 (cm)	13.3	14.5	▲ 1.2	16.0	13.9	2.1
	葉数 (枚)	3.7	3.4	0.3	3.6	3.4	0.2
	茎数 (本/個体)	1.73	1.30	0.43	1.00	1.11	▲ 0.11
	地上部乾物重 (g/100本)	3.22	2.94	0.28	3.64	2.91	0.73
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.23	0.21	0.02
本田生育	草丈 (cm) 6月20日		34.4			35.1	
	7月20日		79.2			82.5	
	8月20日		92			92.7	
	葉数 (枚) 6月20日		7.8			7.9	
	7月20日		10.5			10.5	
	8月20日		10.6			10.6	
	止葉葉数 (枚)		10.6			10.6	
	茎数 (本/m ²) 6月20日		566			501	
	7月20日		792			694	
	8月20日		712			647	
成熟期	稈長 (cm)		77.9			76.2	
	穂長 (cm)		16.2			16.4	
	穂数 (本/m ²)		707			643	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47.9			51.6	
	m ² 当粒数 (×1000)		33.9			33.2	
	稔実歩合 (%)		93.7			94.3	
	m ² 当稔実粒数 (×1000)		31.8			31.3	
	同上平年比		100			100	
	登熟歩合 (%)		80.3			78.8	
	粒摺歩合 (%)		73.9			76.7	
	屑米重 (kg/a)		6.1			4.0	
	屑米歩合 (%)		9.5			6.2	
	精玄米千粒重 (g)		22.5			21.5	
収量	わら重 (kg/a)		65.6			65.8	
	精粒重 (kg/a)		77.6			77.9	
	精玄米重 (kg/a)		57.3			59.7	
	収量平年比 (%)		100			100	
	玄米検査等級 (等)	2上	—		1下	—	

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。
注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m² (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。